

# 5251

## ゆきとどいた教育をもとめる署名 筆を議長に提出!

2月19日(月)、広島市議会議長に、5251人分の署名と請願書を提出しました。これには山本市教組(全教)書記長、神部全教広島書記長、保護者など6人が参加。また、全ての会派にお願いした結果、紹介議員となってくれた日本共産党市議団から5人が同席してくれました。

山本書記長は、子どもの成長を広島市として応援するような施策を求めました。参加した保護者からは学校の先生の増員や、給食費の無償化・自校調理方式の堅持を求める発言がありました。

紹介議員からも、広島市の転出超過の現状を解決するためにも子ども施策の改善を求めたり、教職員の働き方を大幅に改善する必要性を述べてくれました。

これに対して、母谷市議会議長は「みなさんの言われている要求はよく理解している。」としながらも、国の制度の中で進める難しさを述べ、要求実現には後ろ向き姿勢でした。



この署名に託された請願内容について、2月22日の市議会の文教委員会で請願趣旨の説明(裏面)を行い、審議された結果、「継続審議」となりました。

引き続き、子どもたちにとってゆきとどいた教育をすすめる運動を継続していく必要があります。

## 皆さん署名へのご協力ありがとうございました。

9月から始めた教育署名の取り組みですが、職場の多忙にもかかわらず、多くの署名集約に協力いただきありがとうございます。おかげで昨年度を上回る集約となりました。中でも参加分会が増えたことが特徴です。

年度初めの「えがお署名」から始まり「賃金署名」、そして今回の「教育署名」とつながった取り組みになったのではないのでしょうか。今年度は「歯止め署名」も加わり、職場では「これは何の署名なん?」と混乱する様子の声も届きました。職場の多忙の中にもかかわらず、多くの職場で奮闘され、それに応えてくれた職場のみなさまに感謝しかありません。ありがとうございました。

署名活動は、「見える組合活動」の1つです。今後も引き続き「見える組合活動」にご協力ください。よろしくお願いいたします。

2023年度「教育署名」最終集約

**5251筆・71分会**

【昨年度:5172筆・63分会】

## 50筆キャンペーン 21分会が参加!

「教育署名」と「歯止め署名」を合わせて50筆でチロルチョコを50個プレゼントする企画に21分会が参加してくれました。多くの職場で盛り上がったという声が届きました。

参加分会:袋町小、吉島小、江波小、竹屋小、中広中、広瀬小、牛田小、尾長小、皆実小、荒神町小、井口小、古田中、祇園東中、春日野小、高取北中、矢野南小、みどり坂小、五月が丘中、湯来南小、五日市中央小、五日市南小

## 2月22日(木)文教委員会での請願趣旨説明文

### 請願事項 1—(1)少人数教育の推進について

ゆとりある教育環境こそ、助け合うことの大切さ・考える冷静な判断力を学べます。学校は、学び、先生が子どもたちに寄り添っていただく場です。広島市は現在 35 人学級です。心を育てる環境としても、「20 人以下学級」が必要です。また、現在中学 1 年までの少人数学級を実現していただいておりますが、高学年になるほど多感で複雑な時期を迎えます。質の高い教育、安心して学べる場、心を育てる環境としても、ぜひ義務教育間の少人数学級の実現を求めます。

### 請願事項 1—(2)教職員定数の改善について

昨今教員の長時間労働の問題が指摘されています。学校の先生の一日は多忙です。子どもの小学校では、欠席等の連絡は 7 時半から受け付けられています。学校の開始は 8 時半ですから、1 時間前に先生は学校におられるのです。

子どもに深刻な問題が起こっている時には、夜電話がかかってくることもあります。

授業だけでなく、子ども達にトラブルがないか見守り、保護者への連絡、研修・会議、テストの採点、授業や行事の準備、そしてタブレット導入などへの対応など。多忙な先生を見ている子どもたちは、「先生は忙しいから」と先生と話をすることを躊躇することもあるそうです。

子どもの一番近くで働く人のモデルが先生です。子ども達が、先生たちの忙しい働き方を見て、希望を持って「先生になりたい」「社会に出て働きたい」と夢を持てるでしょうか？

今の教育現場の先生たちの姿を見れば、「自己犠牲」・「自己責任」の精神を子ども達に植え付け、我慢が美德のようになってしまっているのではないのでしょうか？

先生の定数を増やし、「ゆとりを持った先生に我が子をじっくり見てもらいたい」、これが保護者の願いです。

### 請願事項 1—(3)代員配置について

昨年 10 月病休に入られる先生がいました。しばらく代員の先生が来られず、校長先生・教頭先生が教壇に立たれるなど、学校も大変だったと思います。

その時期、子どものトラブルなど、「どの子にもあることですから」と対応されました。しかし、子ども達一人一人に主張があります。学校の先生の定数も少ない中、代員配置もできなければ、生徒に向き合う時間が持てなくなります。

「どこにでもある」トラブルのうちには良いですが、子ども達が本当に危機に直面している時に SOS のサインに気づくことができるでしょうか。

### 請願事項 2 の「お金の心配なく学べるよう」について

今、国は児童手当や出産費用など様々な給付を行っています。そのことも大事とは思いますが、それ以上に教育費の無償化、給食費の無償化が、私たち保護者の願いであり、「子どもが欲しい」「子どもを大切に育てたい」と思う未来の保護者の願いでもあります。

各家庭の経済状況に関係なく、子どもが安心して通える学校を実現してください。

先日の中国新聞に「青森県、小中給食無償化」を 10 月から実施するという記事が掲載されていました。広島市教育長が以前、広島市で市内小中学校の給食費無償化を実施した場合 41 億 9 千万円で可能、これは市の財政の 0.6%だと回答されています。

広島市の財政力であれば、今年からでも可能です。子ども達が安心して通える学校を作るために予算を使っただけの自治体であることを望みます。

すべての子どもたちが、大切にされ、学び、豊かな心を育む教育環境をつくるため、請願項目を採択していただきますようお願いして、私の趣旨説明を終わらせていただきます。

「歯止め署名」

18万2226筆

市教組(全教)2301筆

2月15日に全国署名18万2226筆が文部科学省に提出されました。これには市教組(全教)からは76分会からの2301筆を提出しました。

このままでは  
学校が  
もちません!

